

# ヒトと動物の関係学会

## 第30回総会資料

### 総会議題

- 1号議案 2023年次事業報告
- 2号議案 2023年次決算報告
- 3号議案 監査報告
- 4号議案 2024年次事業計画（案）
- 5号議案 2024年次予算（案）
- 6号議案 新評議委員について（案）
- 7号議案 役員を選出について
- 8号議案 会長推薦理事及び執行体制について
- 9号議案 会員年会費の改定について
- 10号議案 表彰について
- 11号議案 その他

日時：2024年3月3日（日）午後13時05分より

場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス来往舎

## < 1号議案 > 2023年次事業報告

### 1) 2023年12月31日現在の会員数

正会員 464名(内学生会員 44名) 名誉会員 0名

賛助会員 3団体・法人会員 5団体

### 2) 学術大会の開催

第29回学術大会 2023年3月11日(土)・12日(日)

大会実行委員長 東海林克彦(東洋大学)

場所: 東洋大学白山キャンパスおよびZOOMによるオンライン同時中継

総参加人数: 123名(会員: 69名 非会員: 54名(対面: 83名 オンライン: 40名))

#### ① シンポジウム 3月11日(土)

「どこまでが動物なのか 一人文学から考える」

コーディネーター: 伊東剛史(東京外国語大学)

パネリスト:

伊東剛史(東京外国語大学)

「引き裂き、引き裂かれるダーウィン ー動物生体解剖と植物の神経ー」

岩崎陽一(名古屋大学)

「無言のオウム、饒舌な蛇ー動物たちが喋り出す古代インドの物語世界ー」

池野絢子(青山学院大学)

「変身の系譜ー現代芸術にみる人間と動物のあいだー」

高橋英之(大阪大学)

「人に優しいロボットのデザインー関係性から創発する being エージェントー」

ディスカッサント:

築地夏海(東京外国語大学大学院前期博士課程)

永野杏奈(東京外国語大学大学院前期博士課程)

コメンテーター: 南谷奉良(京都大学)

#### ② シンポジウム 3月12日(日)

「日本の動物介在教育の黎明・現在・未来～「いのちのぬくもりと大切さ」を伝えるために」

コーディネーター: 花園誠(帝京科学大学)

パネリスト:

花園誠(帝京科学大学)

「日本の動物介在教育の黎明・現在・未来～「いのちのぬくもりと大切さ」を伝えるために」

鈴木哲也(東京未来大学)「戦前の学校飼育動物の歴史」

鳩貝太郎(東京都立大学)「学校飼育動物の現状」

吉田太郎(東洋英和女学院小学部)

「「限りあるいのちと向き合った子どもたち」～動物介在教育はいのちを教えることができるのか?」

藤井敬子(奈良県・うだアニマルパーク)

「奈良県「いのちの教育」～動物からの学びが汎用性のある教育プログラムへ～」

③ 学術大会口頭発表 16 題 (両日)

奨励賞 2 名

宮入 悠太郎 (東京農業大学農学部動物科学科)

「イエネコ (*Felis catus*) の嗅覚を用いた人の認識に関する研究」

山本 千尋 (倉敷芸術科学大学大学院人間文化研究科)

「超音波検査時のイヌと保定者のストレス緩和を目指した保定技術の検討」

④ 学術大会ポスター発表 3 題

ベストポスター賞 1 名

中島 ともみ (藤田医科大学 リハビリテーション学科)

「高齢者と犬との活動における前頭葉機能評価 : 作業遂行エンパワーメント向上に資するシニアサポート犬研究」

3) 研究会の開催

第 128 回例会 「ペットとの同行避難を考える」

開催日 : 2023 年 9 月 2 日 (土) 場所 : 大阪経済大学 D12

近年、ペットも家族の一員という意識が高まり、災害時には飼い主の多くがペットとの同行避難を希望されています。しかし、飼い主にとって避難所でのペット飼育を想定した準備は難しいことが推測されます。そこでこの例会では、ペットの飼い主だけでなく一般市民を対象に、静岡県が開発した避難所運営ゲーム (HUG) にペット版を加え、避難所でどういった作業が必要になるかを体験していただきます。

講師として、ペット版 HUG の開発者である NPO 法人ペット防災サポート協会理事長の三浦律子先生と、人と動物双方の看護師の資格を持ち、避難所でのボランティア活動に従事され大学の講師としても活躍しておられる一般社団法人ひとペット代表理事西村裕子先生をお迎えしました。なお、この例会は大阪経済大学地域活性化支援センターとの共催で行われました。

第 129 回例会 2023 年動物観研究会公開ゼミナール 「動物好きと動物嫌いの関係」

開催日 : 2023 年 12 月 3 日 (日) 場所 : 東京農工大学農学部 2 号館 11 番教室

① 一般発表

奥山友太・佐渡友陽一 (帝京科学大学) 「日本における昆虫採集の歴史」

小川博久・花園 誠 (帝京科学大学)

「ウニ発生観察における生徒の動物観～「マイウニ飼育」プログラムによる生徒の動物観変容について～」

島田将喜 (帝京科学大学)

「一緒に食べることの意味飼育下のテナガザルにおける食物分配に関する予備調査報告」

森 由民 (動物園ライター)

「帽子がつなぐ物語 山極寿一『ゴリラとあかいぼうし』が描くもの」

森山 緑 (慶應義塾大学アート・センター)

「神長官守矢史料館の復元にみる動物の「かたち」——鹿、猪」

第130回 例会 『猫の街・尾道でペット写真家と 猫の写真を撮ろう！ -カメラマン、研究者、宗教者の目線で尾道の野良猫を視る-』

コーディネーター：谷田創（広島大学・ヒトと動物の関係学会 会長）

開催日：2023年12月9日（土） 場所：妙宣寺（広島県尾道市長江1丁目4-3）

講師：中村 陽子 大阪市生まれ。カナダ トロント市在住中に犬と暮らしはじめたことをきっかけにペットの撮影を始める。2015年に（有）ドッグファーストとスタジオD1を設立。ペットや子ども撮影を得意とし、企業広告や雑誌の表紙やグラビア撮影、Canonの写真教室・EOS学園講師などを務める。プライベートでは「愛犬と描く絵本の1ページ」をテーマとして写真撮影に取り組んでいる。

第131回 例会『コウモリと私たち』

開催日：2023年12月17日（日） 開催場所：千葉市動物公園 動物科学館レクチャールーム

講師：大沢夕志氏・大沢啓子氏（コウモリ写真家・ライター）

本例会は、さまざまな学校、研究・学術団体、企業との連携も含め、包括的な調査研究、教育普及活動等を目的とした千葉市動物公園の「アカデミア・アニマリウム」の一環として開催されました。

2023 地域シンポジウム

『生涯キャリアとしての動物看護師 -国家資格となった愛玩動物看護師の今後の展望-』

開催日：2023年12月17日（日）

開催場所：倉敷芸術科学大学1号館（〒712-8505 岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地）

ファシリテーター：谷田創（広島大学・ヒトと動物の関係学会 会長）

令和5年、待望の国家資格「愛玩動物看護師」が誕生人と動物の架け橋となるべく、動物医療・動物看護教育の第一線で活躍するパネリスト7名を迎え、これからの愛玩動物看護師の道を熱く語り合う。

#### 4) 会議の開催

常任理事会 2023年3月11日（於 東洋大学）、7月15日（於 東洋大学）、  
10月28日（於 慶應義塾大学）

理事会 2023年3月12日

評議員会 2023年3月12日

編集委員会 随時メール審議

学術委員会 随時メール審議

#### 5) 学会誌の発行

第64号発刊 2月 550部

第65号発刊 8月 550部

第66号発刊 12月 550部

動物観研究28号 12月 700部

## < 2号議案 > 2023年度決算報告

### 1. 会計報告

2023年12月31日現在

#### I、収入の部

(単位:円)

科目	2023年次決算	2023年次予算	予算比*	備考
一般・学生会費	2,002,000	2,643,000	76%	のべ一般302名、学生15名、不明1名
賛助・法人会費	140,000	250,000	56%	賛助2、法人2
大会参加費	382,000	310,000	123%	大会参加費(2024年30回大会参加費1名込)
出版物売上	130,000	70,000	186%	雑誌会員・学会誌売上
別刷費	0	0	0%	
雑収入	0	0	0%	寄付金等
預貯金利息	0	0	0%	
<b>本年次収入合計</b>	<b>2,854,000</b>	<b>3,273,000</b>	<b>81%</b>	
<b>前年次繰越額</b>	<b>1,361,503</b>	<b>1,361,503</b>	<b>100%</b>	
<b>収入の部合計</b>	<b>4,015,503</b>	<b>4,634,503</b>	<b>87%</b>	<b>本年次収入合計+前年次繰越額</b>

#### II、支出の部

科目	2023年次決算	2023年次予算	予算比	備考
学会誌制作・印刷・封入発送作業費	1,573,544	1,400,000	112%	学会誌64・65・66および動物観研究No.28
学会ホームページ作成	330,000	-	-	ホームページリニューアル
小計	1,903,544	1,400,000	136%	
大会費	278,491	500,000	56%	奨励賞賞品、パネリスト謝金、アルバイト謝金
地域シンポジウム・例会費	105,660	225,000	47%	謝金等
IAHAIO年会費	87,644	75,000	-	IAHAIO年会費
小計	471,795	800,000	59%	
通信費	79,090	80,000	99%	HP管理費、サーバー利用料
郵送費	740	60,000	1%	学会誌等郵送
小計	79,830	140,000	57%	
人件費	570,000	600,000	95%	事務局代行費
旅費交通費	160,460	250,000	64%	理事会交通費
事務費	3,195	50,000	6%	事務用品、梱包資材
雑費	4,125	50,000	8%	振込手数料等
小計	737,780	950,000	78%	
<b>支出の部合計</b>	<b>3,192,949</b>	<b>3,290,000</b>	<b>97%</b>	
<b>次年次繰越額</b>	<b>822,554</b>	<b>1,344,503</b>	<b>61%</b>	
<b>支出の部合計</b>	<b>4,015,503</b>	<b>4,634,503</b>	<b>87%</b>	

\* 予算に対する決算額(%)

### 2. 会費納入状況

個人会員年会費納付状況(2023年12月31日現在) ※退会者は含まない

年次	会員数	納付者数	納付率
2021年次分会費	467	387	82.9%
2022年次分会費	461	344	74.6%
2023年次分会費	464	306	65.9%

過去3年間の個人会員年会費納付状況(2023年12月31日現在)

年次	納付口数	納付金額
2021年納付	383	2,243,000
2022年納付	351	2,263,000
2023年納付	318	2,002,000

賛助・法人会員会費納入状況(2023年12月31日現在)

年次	会員数	納付件数	納付率
2021年次 賛助会員	2	2	100.0%
法人会員	4	4	100%
2022年次 賛助会員	2	2	100.0%
法人会員	5	5	100.0%
2023年次 賛助会員	3	2	66.7%
法人会員	5	2	40.0%

## < 3号議案 > 監査報告

2023年1月1日から12月31日までの2023年次における会計および業務の監査を行い、内容について適正であると認めたのでこれを報告する。

2024年3月2日

監事

天野 卓



若生 謙二



## < 4号議案 > 2024年次事業計画（案）

### 1) 学術大会の開催

第30回学術大会

2024年3月2日（土）・3日（日）

場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス来往舎

対面とオンラインミーティング（Zoom）によるハイブリッド開催

#### ① シンポジウム「野生動物を護ること、殺すこと—狩猟と動物倫理を考える—」

コーディネーター：安田章人（九州大学 基幹教育院）

パネリスト：伊勢田哲治（京都大学 文学研究科 准教授）

金森万里子（京都大学 人と社会の未来研究院 日本学術振興会特別研究員-PD）

今井レイラ（PETA アジア）

安田章人（九州大学 基幹教育院 准教授）

コメンテーター：山越言（京都大学大学院・アジアアフリカ地域研究研究科 教授）

#### ② シンポジウム「よみがえる命 —— 知られざる剥製の世界」

コーディネーター：若生謙二（大阪芸術大学）

パネリスト：杉本恵司（剥製師・アトリエ杉本 代表）

佐藤真琴（剥製製作見習い・アトリエ杉本）

森山 緑（慶應義塾大学アート・センター学芸員）

若生謙二（大阪芸術大学）

#### ③ 学術大会口頭発表 21 題（学生 16，一般 5） ポスター発表 9 題（学生 5，一般 4）

### 2) 研究会の開催

地域シンポジウム 例会 3回

### 3) 会議の開催

常任理事会 2024年3月2日、6月、10月

理事会 2024年3月3日

評議員会 2024年3月3日

編集委員会 数回

学術委員会 数回

### 4) 学会誌の発行

第67号発刊 2月 550部

第68号発刊 7月 550部

第69号発刊 12月 550部

動物観研究 29号 12月 700部

< 5号議案 > 2024年次予算(案)

2023年12月31日現在

(単位:円)

I、収入の部

科目	2024年次予算	2023年次決算	決算比*	備考
一般・学生会費	2,652,000	2,002,000	132%	一般会員420名、学生会員44名
賛助・法人会費	250,000	140,000	179%	賛助3、法人5
大会参加費	380,000	382,000	99%	大会参加費
出版物売上	20,000	130,000	15%	学会誌販売
別刷費	0	0	-	
雑収入	0	0	-	
預貯金利子	0	0	-	
<b>当期収入合計</b>	<b>3,302,000</b>	<b>2,654,000</b>	<b>124%</b>	
前期繰越額	<b>822,554</b>	<b>1,361,503</b>	60%	年度末資産残高から
<b>収入の部合計</b>	<b>4,124,554</b>	<b>4,015,503</b>	<b>103%</b>	(当期収入合計+前期繰越額)

II、支出の部

科目	2024年次予算	2023年次決算	決算比	備考
学会誌制作・印刷・封入発送作業費	1,600,000	1,573,544	102%	学会誌67・68・69号及び動物観研究Vol.29
ホームページ作成費	-	330,000	-	学会ホームページ新規リニューアル作成費用
小計	1,600,000	1,903,544	84%	
大会費	500,000	278,491	180%	講演料・会場費・アルバイト代・備品等
地域シンポジウム・月例会費	150,000	105,660	142%	講演料・会場費・交通費
IAHAIO年会費	90,000	87,644	103%	IAHAIO年会費
小計	740,000	471,795	157%	
通信費	80,000	79,090	101%	HP管理費、サーバー利用料
郵送費	50,000	740	6757%	請求書等郵送(宅急便も含む)
小計	130,000	79,830	163%	
人件費	600,000	570,000	105%	事務局委託費
旅費交通費	250,000	160,460	156%	理事会交通費
事務費	10,000	3,195	313%	事務用品、コピー代を含む
雑費	10,000	4,125	242%	振込手数料等
小計	870,000	737,780	118%	
<b>当期支出合計</b>	<b>3,340,000</b>	<b>3,192,949</b>	<b>105%</b>	
次期繰越額	<b>784,554</b>	<b>822,554</b>	95%	
<b>支出の部合計</b>	<b>4,124,554</b>	<b>4,015,503</b>	<b>103%</b>	

\* 決算に対する予算額(%)

## < 6号議案 > 新評議委員について (案)

新評議員について

評議員 29名

安藤孝敏 (横浜国立大学)  
伊勢田哲治 (京都大学)  
石田 戢 ((財)動物観研究所)  
岩村恵子 ((有)ズーサポートネット)  
大矢 大 (医療法人おおやクリニック)  
奥野卓司 ((財)山階鳥類研究所)  
加隈良枝 (帝京科学大学)  
加藤恵理 (東洋学園大学)  
喜多村晴幸 (大阪府立農芸高校)  
本村光江 (大阪経済大学)  
木村 雄一 (東京農業大学)  
甲田菜穂子 (東京農工大学)  
佐渡友陽一 (帝京科学大学)  
竹花正剛 (一般社団法人 R. E. A. D. D.)  
坪田敏男 (北海道大学)  
中林 雅 (広島大学)  
永澤 巧 (帝京科学大学)  
野中健一 (立教大学)  
鶴見みや古 ((財)山階鳥類研究所)  
新島典子 (ヤマザキ動物看護大学)  
波多野幾也 (NPO 法人 日本放鷹協会)  
濱野佐代子 (日本獣医生命科学大学)  
福岡今日一 ((株) イードッグ研究所)  
細川博昭 (サイエンスライター)  
宮村美帆 (フリーランスエディター)  
森 由民 (動物園ライター)  
森山 緑 (慶應義塾大学)  
横山章光 (あいわクリニック)  
渡辺 元 (東京農工大学)



## < 7号議案 > 役員を選出について

役員を選出について

ヒトと動物の関係学会立候補者

ヒトと動物の関係学会快速施行第4条の規定により、令和6年2月1日に委嘱を受けた選挙管理委員の森由民、加賀谷玲夢をもって令和6年2月6日付けで会則第10条の規定による役員立候補を募りました。令和6年2月20日当日消印有効の締切後、2月21日次点で以下の立候補があり、それぞれ定数であったことを確認し、ご報告いたします。

会長立候補者 谷田 創（広島大学）  
以上1名

理事立候補者 東海林克彦（東洋大学）  
山崎 薫（学校法人ヤマザキ学園・ヤマザキ動物看護大学）  
山越 言（京都大学）  
村尾信義（倉敷芸術科学大学）  
光田達矢（慶應義塾大学）  
伊東剛史（東京外国語大学）  
山本真理子（帝京科学大学）  
内山秀彦（東京農業大学）  
安田章人（九州大学）  
加藤謙介（九州保健福祉大学）

## < 8号議案 > 会長推薦理事及び執行体制について

会長推薦理事及び執行体制について

令和6年3月3日

### 1. 会長推薦理事

ヒトと動物の関係学会会則施行規則第10条の規定により、新会長の推薦によって推薦された理事9名は以下の通りといたします。

会長推薦理事 池谷和信 (国立民族学博物館)  
妹尾あいら (広島大学)  
相馬拓也 (京都大学)  
西村亮平 (東京大学)  
恒川直樹 (日本大学)  
花園 誠 (帝京科学大学)  
小林信一 (静岡県立農林環境専門職大学短大)  
小田 隆 (京都精華大学)  
木場有紀 (帝京科学大学)

### 2. 執行体制について (案)

会長、副会長、事務局長、常任理事、監事は以下の通りといたします。

会長 谷田 創 (広島大学)

副会長 東海林克彦 (東洋大学)  
山越 言 (京都大学)

常任理事

事務局長 内山秀彦 (東京農業大学)  
編集担当 山本真理子 (帝京科学大学)  
国際担当 光田達矢 (慶應義塾大学)  
学術担当 妹尾あいら (広島大学)  
国際・学術 伊東剛史 (東京外国語大学)

監事 天野 卓 (東京農業大学)  
若生謙二 (大阪芸術大学)

## < 9号議案 > 会員年会費の改定について

2023年10月28日に開催された常任理事会において、昨今の物価、人件費上昇に伴い、収支バランスを整えた運営を行う必要性が示唆されました。こうした状況から、常任理事会では、当学会の年会費を増額を検討することとし、第30回学術大会時に行われる理事会評議委員会に提案、ならびに総会での決議をもって、以下の通り、年会費増額ならびに係る会則の改定を提案いたします。

なお、執行部といたしましては、会員の皆様からの意見もお伺いする他、まずは賛助、法人、個人会員のご勧誘、学会誌への広告募集等に尽力すると共に、会費の納入に対し一層のお願いをさせていただき所存でございます。

提案 2024年度総会決定後より、会員年会費を以下の通りとする。

一般会員：8,000円/年（2,000円増額）

学生会員：3,000円/年（据え置き）

## < 10号議案 > 表彰について

常任理事会では、これまで本学会に関する表彰について議論を続けてまいりましたが、2023年10月28日に開催された常任理事会において、以下、ヒトと動物の関係学会表彰規定（案）を設定し、これに示す通り、これまでの大会口頭発表における奨励賞およびベストポスター賞に加え、「ヒトと動物の関係学会賞」および「ヒトと動物の関係学会優秀活動賞」を2025年度から新たに制定することを提案いたします。2024年3月の理事会評議委員会ならびに学会総会での決議をもって、その後常任理事会で本表彰規定（案）の詳細を定め、適宜会則にも盛り込むことを予定しております。

### ヒトと動物の関係学会表彰規定（案）

#### 第1章 総則

第1条 細則第〇〇条により本規定を設ける。

第2条 本規定による表彰の種類は、ヒトと動物の関係学会賞、ヒトと動物の関係学会優秀活動賞、ヒトと動物の関係学会優秀発表賞とする。

#### 第2章 ヒトと動物の関係学会賞

第3条 受賞資格は、本学会の会員として計〇〇年間在籍し、受賞年度末において満50歳以上とする。

第4条 賞の授与に関しては、次の各号に従うことを原則とする。

(1) 授賞は毎年1件程度とする

(2) 賞は賞状からなる

第5条 正会員及び名誉会員は、受賞候補者を常任理事会（監事を含む）に推薦することができる。

受賞候補者を推薦しようとする者は、毎年12月31日までに、受賞候補者の氏名、略歴、受賞題目、2,000字以内に要約した業績内容、推薦者の所属機関、職、氏名を記入した推薦理由書を提出しなければならない。本学会が刊行する学術誌への投稿など、本学会およびヒトと動物の関係に関する教育研究分野における貢献を重視する。

第6条 受賞候補者の選考は、常任理事会（監事を含む）が行う。

第7条 候補者と利害関係を有すると認められる常任理事または監事は、当該候補者の候補者の選考に際して選考から除外する。

第8条 会長は、常任理事会の選考に基づいて受賞者を決定する。

第9条 本賞は、翌年に開催される学術大会において会長が表彰する。

### 第3章 ヒトと動物の関係学会優秀活動賞

第10条 受賞資格は、本学会の会員として計〇〇年間在籍しているものとする。

第11条 賞の授与に関しては、次の各号に従うことを原則とする。

- (1) 授賞は毎年1件程度とする
- (2) 賞は賞状、メダル並びに副賞からなる
- (3) 2名以上の会員が共同活動により受賞した場合は、賞状を受賞者全員に授与する

第12条 正会員及び名誉会員は、受賞候補者を常任理事会（監事を含む）に推薦することができる。

受賞候補者を推薦しようとする者は、毎年12月31日までに、受賞候補者の氏名、略歴、受賞題目、2,000字以内に要約した活動内容、推薦者の所属機関、職、氏名を記入した推薦理由書を提出しなければならない。本学会およびヒトと動物の関係に関する活動における貢献を重視する。

第13条 受賞候補者の選考は、常任理事会（監事を含む）が行う。

第14条 候補者と利害関係を有すると認められる常任理事または監事は、当該候補者の候補者の選考に際して選考から除外する。

第15条 会長は、常任理事会の選考に基づいて受賞者を決定する。

第16条 本賞は、翌年に開催される学術大会において会長が表彰する。

### 第4章 ヒトと動物の関係学会優秀発表賞（奨励賞）ならびにベストポスター賞

第17条 受賞資格は、本学会の学生会員であり、受賞年の学術大会で口頭ならびにポスターで研究発表をしたものとする。ただし、受賞回数は各賞それぞれ一回のみとし、過去に受賞歴のある場合、その賞の候補者とはならない。

第18条 賞の授与に関しては、次の各号に従うことを原則とする。

- (1) 授賞は毎年1件程度とする
- (2) 賞は賞状並びに副賞からなる

第19条 優秀発表賞受賞候補者の選考は、学術委員長が指名した会員からなる選考委員会が学術大会時に行う。ベストポスター賞受賞候補者の選考は学術大会時における理事および評議員による投票とする。

第20条 選考委員会は、選考結果を常任理事会に報告する。

第21条 会長は、選考委員会の結果に基づいて受賞者を決定する。

第22条 本賞は、学術大会の最終日において大会長が表彰する。

## <11号議案> その他

編集委員長より、学会誌のオンライン J-Stage への掲載準備が整い、早ければ7月発行の68号からの掲載にむけて準備が進んでいる旨が報告された。